

科目ナンバリング		U-LAS02 10008 LJ36							
授業科目名 <英訳>	国語国文学II Japanese Philology and Literature II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐野 宏				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	火5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
<b>【授業の概要・目的】</b>									
日本文学における代表的な古典から、とくに萬葉集を講読する。萬葉集全二十巻を巻毎に取り上げつつ、和歌を抄出して講読している。各巻の概要や部立てのあり方、歌学における萬葉歌の享受史に触れながら、日本古典研究の基礎的な知識の習得を目的とする。ゆったりと萬葉歌の鑑賞を行う予定である。今期は巻15から16の作品を取り上げる。									
<b>【到達目標】</b>									
萬葉歌について一般的な解釈を踏まえつつ、自らの審美眼で作品を鑑賞できるようになることを目的とする。									
<b>【授業計画と内容】</b>									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 萬葉集について(古代和歌史概説を含む)</li> <li>2 巻15・3723～中臣宅守の流刑の原因概説</li> <li>3 巻15を読む 遣新羅使人歌群と宅守・娘子贈答歌群の類似性「生別と死別の相関」</li> <li>4 巻15を読む 防人歌群における「挽歌的性格 生別と死別」</li> <li>5 文芸における「無常」の価値と現実の素材化</li> <li>6 恒常の否定と無常の否認 戯れの美学</li> <li>7 贈茅上娘子十三首(3754～3766番歌)</li> <li>8 贈茅上娘子十三首(3754～3766番歌)</li> <li>9 贈茅上娘子十三首(3754～3766番歌)</li> <li>10 贈茅上娘子十三首(3754～3766番歌)</li> <li>11 贈宅守八首(3767～3785番歌)</li> <li>12 贈宅守八首(3767～3785番歌)</li> <li>13 贈宅守八首(3767～3785番歌)</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 フィードバックと補足</li> </ol>									
<b>【履修要件】</b>									
特になし									
<b>【成績評価の方法・観点】</b>									
講義期間の最終日に基礎的な事項の確認試験を行う(60%)。時折、講義中に小テストを行うほか、授業への積極的な参加度(40%)を総合的に加味して評価する。									
----- 国語国文学II(2)へ続く -----									

## 国語国文学II(2)

### [教科書]

井手至、毛利正守 『新校注 萬葉集』(和泉書院)  
坂本信幸、毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院) ISBN:978-4-87088-728-2  
上記テキストを持参しているものとして講義を行う。

### [参考書等]

(参考書)  
内田賢徳 『萬葉の知』(塙書房) ISBN:978-4827335941  
『萬葉の知』はとくに巻13と記紀歌謡、挽歌と相聞の質的な関係を考える上で示唆に富む。なお『セミナー万葉の歌人と作品』(和泉書院)のシリーズのうち、講義で該当する箇所を予め通読しておくことが望ましい。

### [授業外学修(予習・復習)等]

プリントを配付するので、次回分については注釈書類を用いて通釈を読んでおくこと。その場合、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系、岩波文庫本の三種類の通釈(現代語訳)を比べて、どこが異なるかを確認しておくことよい。

### [その他(オフィスアワー等)]

火曜日3コマ目、木曜日の4コマ目をオフィスアワーにします。木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認してください。

### [主要授業科目(学部・学科名)]